

福祉先進都市東京に向けた懇談会（子供分野）

父親が変われば、社会が変わる。

～男性WLBの推進～



NPO法人ファザーリング・ジャパン
ファウンダー／代表理事 安藤 哲也

2014年10月22日 都庁第一本庁舎7階大会議室

FJファウンダー・安藤プロフィール

安藤哲也(あんどう・てつや)

- ▶ 1962年生まれ。現在、17歳(女)、14歳(男)、6歳(男)の父親。
大学卒業後、出版やIT系企業で働く。
06年11月、会社員の傍ら、父親の子育て支援・自立支援事業を展開するNPO法人ファザーリング・ジャパン(FJ)を立ち上げ代表に。
2012年には社会的養護の拡充と児童虐待の根絶をめざす、
NPO法人タイガーマスク基金を立ち上げ代表に。
- ▶ 地域では、保育園、学童クラブの父母会長、小学校のPTA会長
- ▶ を務めるほか2003年より、**パパ's絵本プロジェクト**のメンバーとして、
- ▶ 全国の図書館・保育園・自治体等にて、パパの出張絵本おはなし会を開催中。
- ▶ 著書に『パパの極意～仕事も育児も楽しむ生き方』(NHK出版)、『絵本であそぼ!』(小学館)、翻訳絵本に『ぼくとおとうさんのテッド』(文溪堂)などがある。
- ▶ 主な委嘱委員・・・ **厚生労働省イクメンプロジェクト推進チーム**座長/内閣府・ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム/**内閣府・男女共同参画推進連携会議**/国土交通省観光庁・休暇改革国民会議/**東京都・次世代育成支援検討委員会**/**東京都・子育て応援とうきょう会議**/文部科学省・父と子の愛着形成プログラム研究委員会/厚生労働省・男性の仕事と育児の両立意識啓発事業委員会/内閣府・少子化社会対策に関する先進的取組事例調査研究会/内閣府・認定こども園制度の在り方に関する検討会/松戸市・男女共同参画推進協議会/埼玉県地域家庭教育推進協議会/につぼん子育て応援団団長/



特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン(FJ)概要

Fathering
Japan



「Fathering＝父親であることを楽しもう」という考えを持つ若い世代の父親を支援。働き方の見直し(WLB)や企業の意識改革、**地域社会の再生**など父親育児の環境づくりと次世代育成を目標に、セミナー、スクール、検定、旅行、出版などさまざまな父親支援事業を展開。また父子家庭支援や男性の育休取得推進など政策提言としての活動も行う。 www.fathering.jp

★設立：2006年11月
個人会員：400名(パパ95%)
法人会員：20社
サポーター会員：7,800名
(2014年9月現在)



Fathering (ファザーリング) とは？

- ★父親であることを楽しもう。
 - ★地球上で、父親ほど素晴らしい仕事はない。
 - ★育児は、期間限定のプロジェクトX。
 - ★育児は能力開発の機会、アナザーワールドへの入り口。
 - ★よい父親ではなく、笑っている父親になろう！
-

ファザーリング・ジャパン（FJ）の事業

- ・セミナー、ワークショップ、フォーラムの開催
- ・ファザーリング・スクール(父親学校)の開講(09年10月～)
- ・個人、企業の意識(実態)調査、子育てパパ力検定の主催
- ・父親コミュニティ、ネットワーク形成、父子キャンプの開催
- ・次世代パパ育成 FJS活動、啓発授業@大学・高校
- ・企業提携(研修、事業アライアンス、コンサルティング)
- ・父子家庭支援(フレンチトースト基金)
- ・産後うつ予防(ペンギンパパプロジェクト)
- ・男性の育休取得推進(さんきゅーパパプロジェクト)
- ・中高年男性のエンパワーメント(イクジイプロジェクト)
- ・児童養護施設の成長&自立支援(タイガーマスク基金)
- ・東日本大震災支援活動(パパエイド募金)

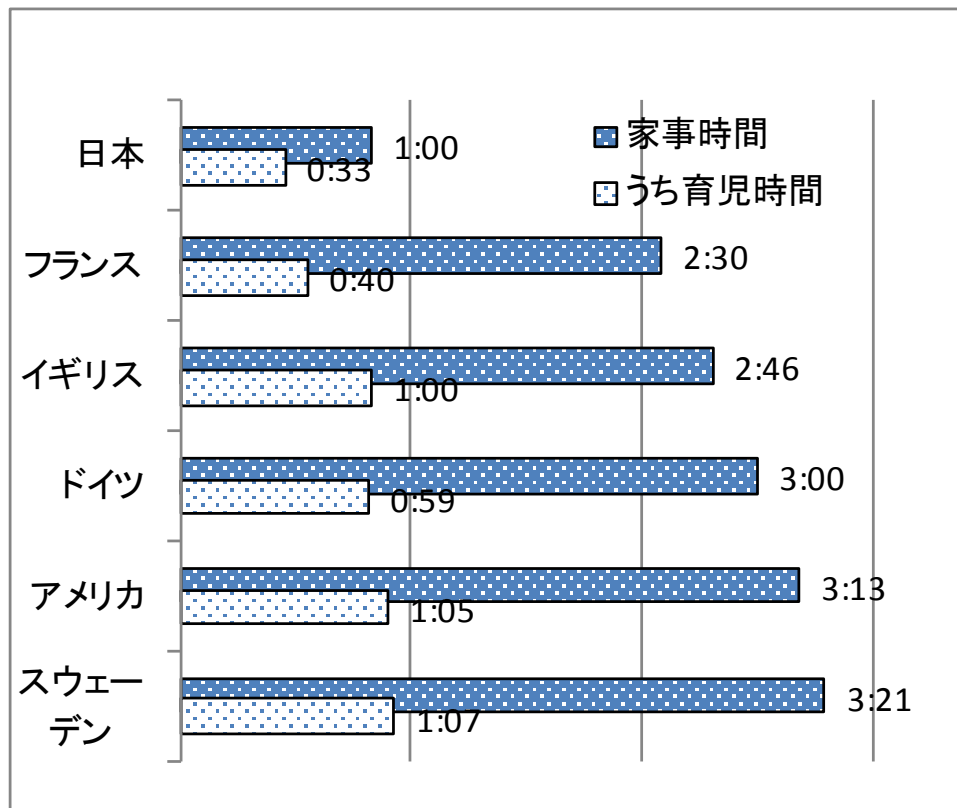
男性の子育ての悩み・課題

- ▶ ①仕事が忙しくて育児時間が取れない
 - ▶ (育児時間＝30分/日、育休取得＝2.0%、有休消化率＝50%未満)
 - ▶ ②子どもとどう向き合っているかわからない
 - ▶ ③子どもが生まれてから、夫婦関係が悪化した
 - ▶ ④経済力がなく育児が不安
-



6歳未満の子のいる

男性の家事・育児時間



出所：各国資料より。日本、アメリカは
2006年、それ以外は2004年

育児休業の取得

2011年度(2005年度)

女性 87.8%(72.3%)

男性 2.63%(0.50%)

出所：厚生労働省「雇用均等基本調査」

子育て経験のある20-49歳
男性を対象にした調査では

日本 4.8%

アメリカ 20.2%

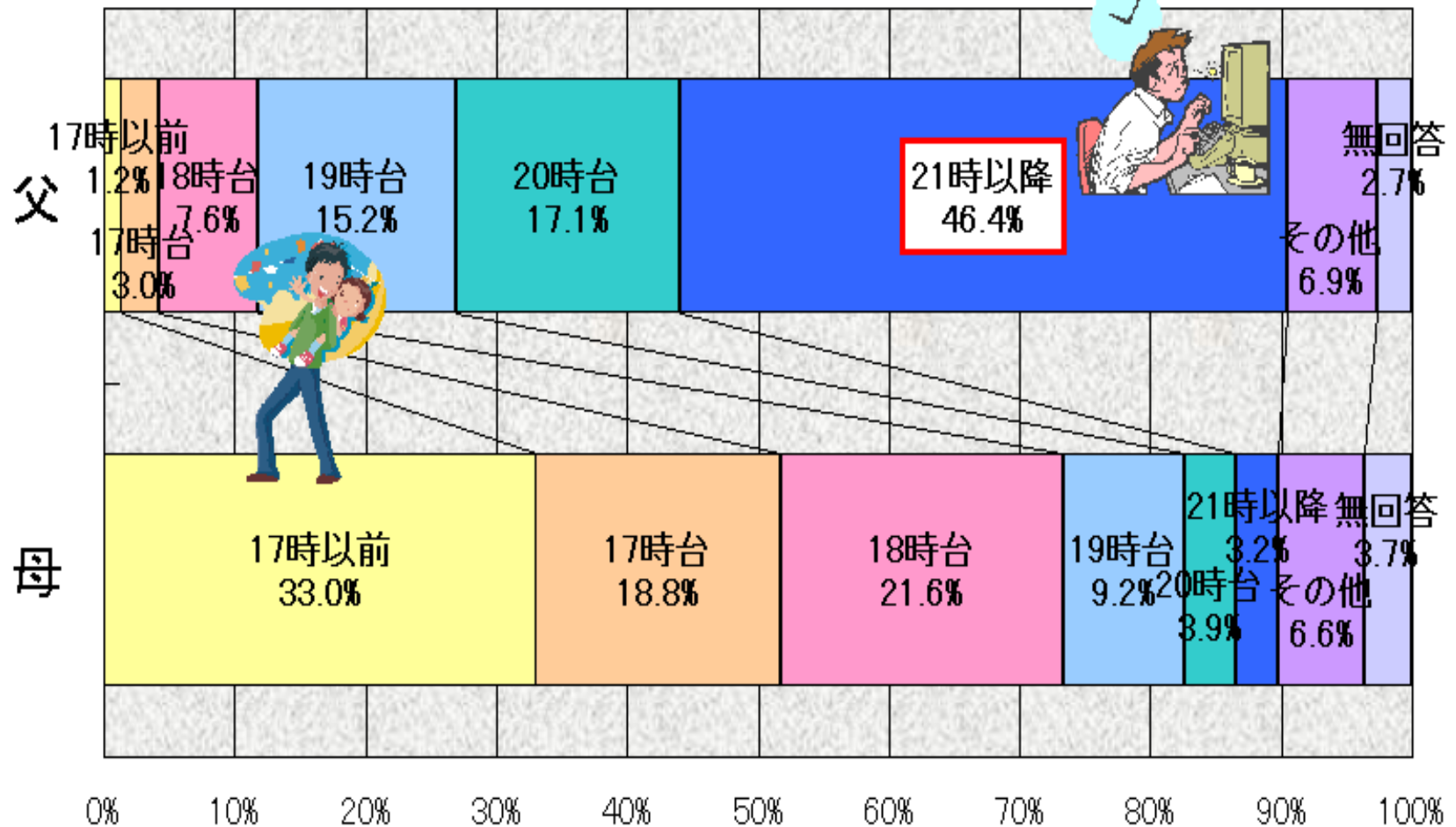
フランス 23.5%

スウェーデン 74.0%

出所：内閣府「少子化社会に関する国際
意識調査」(2010)

パパ、ママは何時に帰っている？

(調査対象:小学生までの子どもを養育する世帯)



資料:平成19年度東京都福祉保健局基礎調査「東京の子どもと家庭」(速報)

F J セミナー



ファザーリング・スクール (父親学校)



<カリキュラム>

パパの育児参加と子どもの成長

ワークライフバランス

絵本・あそび

パパごはんの作り方(料理教室)

産後ケア

ママの心のつかみ方(パートナーシップ)

ファイナンシャル(子育てとお金の話)

育児と社会問題

地域・コミュニティづくり

ファザーリングの極意

パパ・ブランディング

修了式

放課後(交流会)

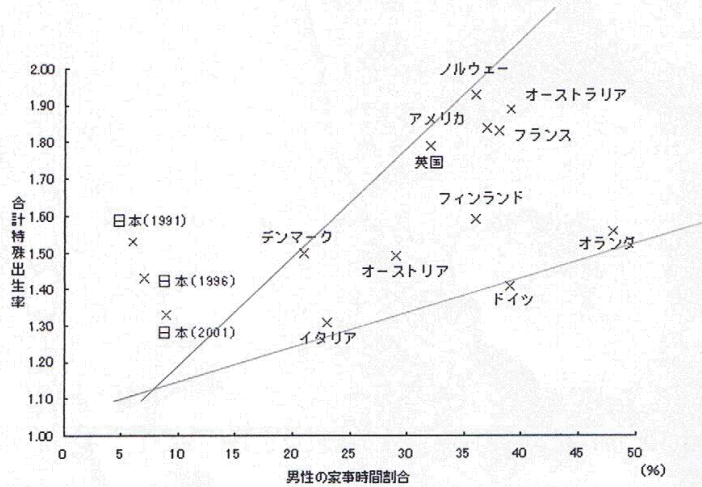
父親が育児に関わるメリット

- ・母親の育児ストレスが軽減される。
 - ・夫婦関係(パートナーシップ)が強まる。
 - ・子どもの成長にいい。言葉や社会性が早く身につく。子どものよきモデルとなる。
 - ・自活力がつく。地域に友達も増え、定年後～老後も安心。
 - ・仕事で有効な能力も身につく。アイデアが仕事に活きる。
 - ・父親自身の世界が広がり、人生が楽しくなる。
-



父親が家事・育児をすると社会的には・・・

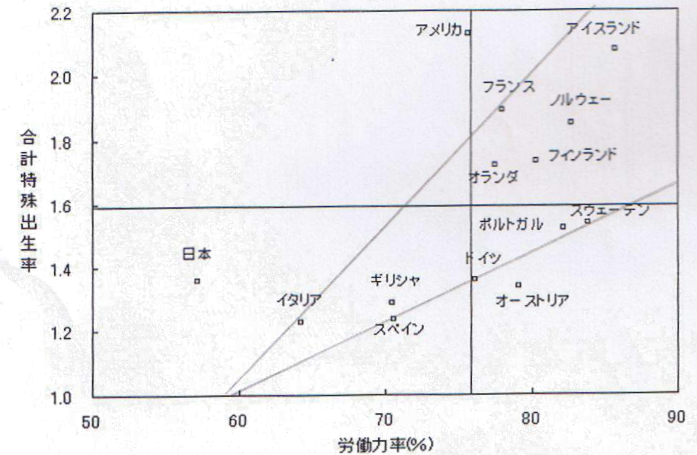
図表31 先進諸国における男性の家事時間割合と出生率



資料: UNDP, Human Development Report 1995, 1995. 総務省統計局『社会生活基本調査報告書(第1巻)』各年版
注: 諸外国のデータは各国の調査年次が異なるため1985-92年にまたがる。

→ 男性が育児参加をするほど、出生率は上がる。

図表27 女性(30-34歳)の労働力率と出生率の関係: 2000年



出典: Council of Europe, Recent Demographic Developments in Europe 2001, 2001.
U.S.DHHS, National Vital Statistics Report, 50-5, 2002.
ILO, Yearbook of Labor Statistics, 2001.

→ 出産後も女性が就労するほど、出生率は上がる。



子ども虐待を引き起こす要因

虐待の背景は複雑で、親や養育者が抱える事情がいくつも重なって起こります。

- 育児に不安がある
- 夫が育児に協力してくれない
- 夫婦の仲がよくない
- 経済的に苦しい
- 夫が定職についていない
- 孤立した子育て、相談相手がいない
- 親が自分の親との葛藤を抱えている
- 成長がゆっくり、障がいを持っている子ども
- 産後うつ病
- アルコール依存症



父親支援をめぐるネットワークの相關図

国・自治体

- ・男女共同参画
- ・子育て支援
- ・労働政策
- ・社会教育
- ・生涯学習

各NPO

- ・子育て支援
 - ・父親支援
 - ・母親支援
- ・ひとり親家庭支援
- ・中高年のエンパワーメント



ファザーリング
II
父親であることを楽しむこと
パパが育児参加できる
環境作りの強化

企業

- ・人事部
- ・労働組合
- ・ダイバーシティ推進

学校・地域

- ・PTA活動
- ・キャリア支援
- ・自治会活動

**期待される
成果**

男女共同参画社会の実現・
ワークライフバランスの推進

地域の活性化・
持続可能な共生社会

人材の獲得と有効活用・
企業の生産性向上

児童虐待・産後うつ・
離婚・DVなどの予防

少子化の歯止め・
女性就業率の向上

...etc

Fathering Japan

イクボスプロジェクト

IKUBOSS PROJECT



イクボスとは、職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことを指す。



東京都へのご提案

- ①父親の育児参加を促進～妊娠期のパートナー(夫・扶養者)への父親学級の義務化
- ②残業のない働き方への転換～長時間労働の是正、ワークライフバランスの推進
- ③家族形成力の醸成～「パートナーシップ」教育の充実
- ④社会的養護のさらなる拡充(里親・家庭的養護の推進、子どもシェルターの増設など)

Fathering Japan

ご清聴ありがとうございました！



イクメン & イクボスが増えれば、
社会が変わる。

Fathering Japan